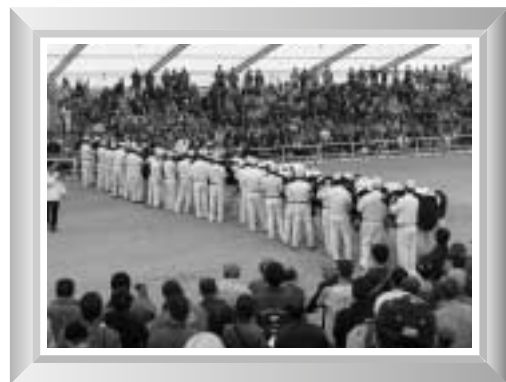




第2部で中家重夫さんの出品牛をリードする葛巻  
ジュニアホルスタインクラブの岩泉典華さん



# 全日本共進会、町から過去最高の10頭出品 「酪農の町」全国へ発信

第十二回全日本ホルスタイン共進会と第四回全日本ジャージー共進会は十一月三日から六日まで栃木県壬生町で開かれ、岩手県代表として本町から十頭の乳牛が出品されました。葛巻の改良技術の水準の高さや中学生リードマンの登場は全国から注目され、酪農振興に大きな弾みがつきました。

共進会は五年に一回開かれ、本大会には四十四道府県を代表するホルスタイン種三百三頭、ジャージー種六十頭が出品されました。岩手県の出品枠はジャージー種を含めて二十四頭。本町から過去最高の十頭が代表に選ばれました。一町村の出品数では群を抜く多さで、全国に改良技術の水準の高さを誇りました。

## 中学生が堂々リード

大会初日の十一月三日は、開会式や測定審査、写真撮影などが行われました。ホルスタイン十二部門、ジャージー四部門の審査は四日から始まり、大勢の酪農関係者らが真剣な眼差しで審査の行方を

見守りました。

出品者に交じり、全国の晴れ舞台で葛巻ジュニアホルスタインクラブ（今待秀幸会長）の岩泉典華さん（江刈中二年）と中村大地さん（同）も堂々と牛をリード。次代を担う同クラブ会員の登場は、明るい話題を振りまきました。

審査結果は、中六角保広さん（三十八歳・中村）所有の「リバティファーム ステファン デリア」が一等賞二席に入り、町出場者の中で一番の成績を収めました。

## 漆真下さんに表彰状

共進会五回目の出場となった漆真下孝幸さん（五十一歳・大沢）が、同共進会・社団法人日本ホルスタイン登録協会（山崎博文会長）から多回出品者として表彰状を贈られました。

漆真下さんは昭和五十年、二十歳で初めて全共へ出場。以来五回の出場で七頭出品し、優等賞を二回獲得するなど、約三十年間精力的に乳牛改良を続けています。



乳牛改良のリーダーとして活躍する漆真下孝幸さん

「日ごろの管理や目に見えない努力が出品につながるので、勝ち負け以上に、県代表として出品できるうれしさがあります。続けてこられたのは、家族の協力和先輩方からの指導のお陰と感謝しています。乳牛改良は一人の力では出来ません。さまざまな情報をいち早く取り入れながら、若い世代の人たちと一緒に、いい牛づくりをしていきたい」と熱く語ります。

「とちぎファームフェスタ二〇〇五」と銘打った共進会は、四日間で六十八万九千人が入場しました。消費者との交流や農畜産物の宣伝など農業への理解を深める場となり、「酪農の町・葛巻」を大いにアピールしました。